

群 教 セ	G15 - 01
	令元.271集
	高-キャリア

令和元年度長期社会体験研修報告書

研修先：株式会社SUBARU

長期社会体験研修員 坂巻 康夫

I 研修内容

1 研修先の概要

株式会社SUBARUは、1917年に群馬県尾島町（現太田市）に前身の飛行機研究所として創設された。2018年に新中期経営ビジョンを発表し、組織風土改革を第一に掲げ、社会の変化に対応できる企業に生まれ変わろうとしている。主な事業は、自動車事業部門、航空宇宙事業部門である。自動車事業では、高い安全性能、優れた走行性能を追求した製品開発を行っている。追突事故等の被害を最小限に食い止める運転支援システム「EyeSight」が有名である。航空宇宙事業では、航空機やコンポーネントの開発・生産、及びヘリコプター試作機等の開発・製造を行っている。

配属先の自動車事業部門は国内唯一の生産工場であり、全社売り上げの約95%を占めている。2019年は、国内外併せて約99万台の自動車を生産された中で、約62万台生産し、その内約51万台を海外に輸出している。

2 研修先での主な研修内容

(1) 人材開発係での研修【4月2日～3月25日】（研修場所：群馬製作所本工場 人事課フロア他）

人材開発係は、主に新入社員研修、階層別研修、通信教育等の研修業務、各種式典、社内五輪大会運営業務、部署ごとの支出管理、資格取得補助金の助成など、社員の教育関係費予算管理等の業務を行っている。また、技能五輪（旋盤、プラスチック金型、板金）選手の育成、職業訓練校の運営をしている。

研修業務では、研修教材の準備、会場設営、研修案内、参加予定変更対応などの補佐や聴講をした。また、毎月各部署にて行われている月例会の資料原稿の依頼・編集・発行業務を行った。

式典・大会運営業務では、期間従業員から正規登用者入社式、永年勤続表彰式や社内成人式、所内技能五輪大会の表彰式の運営業務などに携わった。

月次業務では、公的資格取得援助申請の受付、業務改善提案の集計、各部署で支出した教育関係費の支払い処理などを行うとともに、業務改善提案制度の改革についても携わることができた。

(2) 人材企画係での研修【4月2日～3月25日】（研修場所：群馬製作所本工場 人事課フロア他）

人材企画係は、主に新卒・中途採用業務、人事評価、海外赴任・出張サポート業務、海外からの実習生受入業務、定年退職業務などを行っている。

新卒採用業務では、卒業生が活躍している姿の写真と本人のコメントを掲載したパンフレット「元気で頑張っています」を作成し、求人票とともに送付する業務を行った。また、高校生の会社見学会の運営補佐、試験監督などの採用活動等の業務にも携わった。

3 キャリア教育実践

(1) キャリア教育資料について

本研修を通して、働くことの意義について改めて考え、これから社会に出て行く高校生に、「会社とは何か」「製造業でのキャリアアップとは何か」について理解してほしいと思い、資料を作成した。「会社の存続の目的は何か」「製造業における改善活動」を中心として、どのような資質・能力が求められているかを気付かせる内容とした。

(2) 実践の概要（県立藤岡工業高等学校）

授業実践

題材名 「自分の役割を果たすことについて考える」（特別活動「ホームルーム」）

対象 電子機械科第1学年 31名

自動車の製造は、多くの工程があり多くの人が関わっている。各工程で決められた役割を果たすことで、品質のよい製品が完成する。そこで、コミュニケーション能力や他者と関わることの大切さ、他者と協働しながら自己の役割を担い、自らがどのように責任を果たさなければならないかを考え、気付かせるようなグループワークを取り入れた授業を行った。

II 研修成果

1 人事課人材開発係での業務について

各種研修での配布資料は開催規模により、印刷業者に依頼したり、係員が印刷したりと、研修日の2週間以上前から準備を行っていた。開催後には振り返りを行い、次回開催時には業務運営を改善し実施していた。常に、PDCAサイクルを実践し、業務改善活動を行っていた。研修等は多くの部門から参加するため、案内はメールによる通知文の配布で実施されている。受講者側の視点に立ち、分かりやすく伝わる通知文の作成を心掛け、問合せが最小限になるように努力した。

教壇に立ち、授業を行う際に、生徒が分かるように伝えていただろうかと改めて自分自身が仕事に携わる姿勢を見つめ直すことができた。

2 人事課人事企画係での業務について

新卒者の採用活動を通して、学校と企業のつながりについて学ぶことができた。企業は10月の内定通知後から、次年度の採用に向けて活動を開始しており、人材の確保に努力していることを実感した。また、障害者雇用に対しては、工場見学だけではなく、事前の職業体験を実施するなど、仕事のミスマッチがないよう社員の定着を大切にしており、丁寧な説明と思いやりをもって採用活動を実施していることが分かった。

3 キャリア教育実践（授業実践）について

グループワーク「品質の熱気球」を通して、品質に対する考え方は、人それぞれ違い、同じ内容でも他者は違う価値観をもっていること、自分の意見は発言した方がよいことに気付かせることができた。また、伝言ゲームでは、前の人から聞いた内容を後の人に正確に伝えることの難しさ、メモを取ることの重要性を理解させることができた。これからの高校生活で、どのような点に気を付けて生活を送るべきかを生徒一人一人が考え、具体的な目標を立てさせることができた。

III まとめ

企業は、社会の変化に応じて成長し続けるために、人材育成に尽力していた。製造業である研修先のものづくりには人材が欠かせない。つまり、人づくりが大切であることに気付くことができた。

与えられたことができる任務遂行能力、最後までやり切る責任感、改善活動など円滑なチーム活動に必要なコミュニケーション能力を必要としていた。また、「自分のやりたい仕事ではなかった」「想像と違った」などの理由で早期退職とならないよう、企業は社員の定着に積極的に取り組んでいることが分かった。企業で必要としている能力を育成するためには、就職する目的を明確にし、意欲的に働けるような進路選択をさせる必要性を強く感じた。

研修を通じて経験したことを、生徒の学習指導や進路指導、学校組織の活性化、キャリア教育の充実のために実践に生かしていきたい。

（担当指導主事 費田 秀樹）